

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2017-11-01

# APM news 180

## 秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)

長岡まちなかミュージアム2017

「秋山孝のメッセージ〜ナガオカヲ アルコーヤ!アルコーテェ!アオーレ!〜」

9月1日(金)〜7日(木) am10:00〜pm5:00 / 来場者: 2,754名



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8  
TEL 0258-39-1233



「長岡まちなかミュージアム」は、NPO法人ながおか未来想像ネットワークが主催するイベントで、長岡駅前にあるシティホールプラザ・アオーレ長岡をメイン会場に、市内数カ所の会場で開催する大規模な展覧会である。毎回、市ゆかりのアーティストが取り上げられているが、2017年の第3回は秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) 館長・秋山孝が選ばれた。期間中には、通常は事前予約制をとっているAPMとAPM・蔵も予約無しで入れる開放日を設けた。(9月1日-3日の3日間)

秋山館長は、この展覧会を行うにあたり「市民にまちなかを歩いてもらうこと」が何よりも重要であると考えた。長岡駅前のメインストリートである大手通りは、近年、人通りが減少している。自分たちの暮らす街がこのままで良いのか、市民一人一人が問題を受け止め考えなければいけないのではないかと、そのきっかけとして市民にまちなかに出てきてもらい、歩いてもらう企画にしなければならない。そう考えた秋山館長は、まず「ナガオカヲ アルコーヤ!アルコーテェ!アオーレ!」というキャッチフレーズを掲げた。これは「長岡を皆で歩きましょう!そして歩きましょう!アオーレ長岡で会いましょう!」という意味である。このコンセプトのもと、主催者側の担当者と打ち合わせを重ね、企画内容が決まっていた。

展示内容は、長岡駅前の4会場で秋山館長のポスター作品約200点を並べて展示した。メイン会場のアオーレ長岡西棟1階市民交流ホールAと西棟3階市民交流ホールB・Cには制作年に沿って最新作品から時代を遡るような展示をした。また、大スクリーンに秋山館長が故郷長岡への想いや、創作活動について語った映像を投影した。そのほかフェニックス大手イーストスクエアには「地震」、ながおか市民センター1階には「APM」、カーネーションプラザには「越後百景十選」をはじめとする「地域」と、各会場にテーマを設けそれに沿った作品を展示した。秋山館長の作品は、社会の抱える問題や事件を取り上げているため、作品を巡るとその時代背景が見えてくる。また、各会場にはその施設の過去の写真パネルも一緒に展示した。作品を巡りながら鑑賞者が長岡市の現在から過去を思い起こし、これから先の未来を考えて欲しいというのが秋山館長の願いである。

また、今回は市民に歩いてもらう仕掛けの1つとして「一輪挿しプロジェクト長岡」を立ち上げた。長岡市商店街連合会の協力のもと、大手通り、すずらん通り、セントラル通りの主要通り3本のアーケードの柱全てに一輪挿しと展示リーフレットを設置し、展示会場を結んだ。ガーベラの花とオレンジ色の秋山館長の作品が連なる様子は壮観であり、道行く人々の視線を奪っていた。このプロジェクトは「長岡まちなかミュージアム2017」の関連イベントで終わるものではない。まだスタートにすぎない。ゆくゆくは市民自身がそれぞれの玄関先にオリジナルの一輪挿しを飾り、自発的に管理してゆく形を理想としている。花以外にも俳句などが添えられるようになるとなお良し、と秋山館長は語る。一輪挿しを介して市民同士のコミュニケーションが生まれ、美的感覚や芸術的な心が現れることで、自分たちが暮らす街への関心が高まり、健全な街づくりに繋がっていくことを願っている。このプロジェクトこそが、デザイナー・秋山孝が故郷長岡へおくるメッセージなのだと感じた。

(たかだみつみ・APM事務局長、学芸員)